

6/1 21:39

沖縄で「長距離ミサイル」戦闘想定

住民に隠し配備既定路線

穀田氏、陸自内部文書暴露

衆院
外務委員会

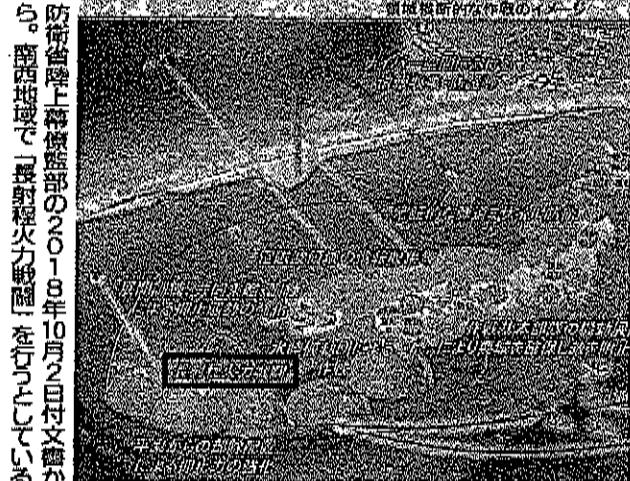
日本共産党の穀田恵

二議員は31日の衆院外務委員会で、沖縄を中心とした南西地域が戦場と化す「長射程火力戦闘」を想定している

井野俊郎防衛副大臣は、「長射程火力戦闘」について、「長距離ミサイルを用いた作戦行動だ」と明言。穀田氏は、政府がこれまで、沖縄県内の住民説明会などで敵基地攻撃が

可能な長距離ミサイルの配備先は決まっていなこと繰り返してきたことばかりで、「南西地域への配備は既定路線ではないか」と厳しく指摘しました。

資料は防衛省陸上幕僚監部が2018年10月の部内会議で使用した、「将来の我が国防衛省が作成した18年12月の「自衛隊の体制・装備等」と題する内部資料」に「長射程火力戦闘機能の強化」として、「高速滑翔弾の整備、SSM(12式地対艦誘導弾)、中SAM(地対空誘導弾)の長射程化」が明記されています。



防衛省陸上幕僚監部の2018年の10月の内閣文書から
沖縄地域で「長射程火力戦闘」を行っていたことが
明らかにされています。

穀田恵二議員は、衆院外務委員会で

「長距離ミサイル」戦闘想定

を実現させたとしていることを想定したもの

射程化」は、岸田政権が強行した安保3文書で、「攻撃能力」+敵基地攻撃能力の一環として、まさに沖縄が戦場になる

射程化」は、日本に戦火を呼び込む大軍拡計画は中止すべきだと求めました。

射程化」は、日本に戦火を呼び込む大軍拡計画は中止すべきだと強調し、「日本に